

# こんにちは 松坂みち子 です



日本共産党市議会議員 松坂みち子の活動報告  
ご意見など、ぜひお寄せ下さい。

< 169 2014.3.9 連絡先 402-1622 >

## 一般質問しました

### 介護保険について

暫定サービス利用中、認定調査前に亡くなった方は全額自己負担になります。助成制度があれば、安心して申請・利用できます。助成制度をつくるよう求めました。また、第6期介護保険策定委員会委員の市民代表4人のうち公募は2人だけです。広く市民の声を聞くための市民代表ですから、4人全員公募とするよう求めました。

- ・介護の現場ではヘルパーさんが足りません。各事業所の状況を市がつかんで情報を提供する、市が直接ヘルパーを確保するなど対策を求めました。

### 平和行政について

政権が日本を戦争できる国にしようとしている今、戦争の悲惨さと平和の大切さを一人ひとりが自分のこととして考えるべき時だと思えます。市がその資料を提供するために、次のことに取り組むよう求めました。

- ・市内の戦跡や、戦争・平和に関する場所に標柱を立てて、誰もがわかるようにすること。また、それらを、1枚のマップにして表すこと。
- 戦争の経験等を聞き、記録として残すこと。
- ・ホームページに、市の様々な取り組みを平和施策としてまとめて掲載すること。



当局は、平和行政については、それぞれ検討すると答えました。

「みんなのおひなさま」で子どもたちも満足していたと思います。次女に聞くと、二つはいらないと返事。その後、下の写真が送られてきました。



### みち子のひとりごと おひなさま

次女のところに生まれたのは2人目の女の子。1人目の子には雛人形を買ってあげましたが、さて、2人目はどうしたものかと、迷っていました。先日のある集まりで、人生の先輩方にお聞きしたところ、女の子にはそれぞれに雛人形を用意するものだとのお話。そして、結婚するときは持つていくのかと思いきや、淡島神社に供えるのだそうです。我が家は娘が3人。長女のとくに、3段飾りを買っていただいたのですが、狭いアパートだったので、3月3日の朝出して夜片づける（でない）と寝る場所がないという状態でした。当然、二つめを考える余地もなく、

こんにちは加藤なおとです



### 私自身のこと

作業所問題を通じて社会を変える必要を知りました。当時の作業所は法的根拠がありません。自主的サークルの扱いでした。1982、3年ころでしたか、共産党の堀川太一市会議員が作業所の窮状をみて、私たち関係者と当時の民生部長を議員室に呼んで懇談会を持って

くれました。堀川市議は「民生部長、あなたの仕事は障害者があるからあるんやで、障害者がなかったらあなたは失業ですよ」と。障害者の

ために民生部の仕事はある！と。なんと痛快な科白でしょう！30数年前の科白をいまだに忘れないで覚えているのですから。

堀川さんは正義の味方「ウルトラマン」でしたね。私は和歌山で改めて2つの大事なことを学びました。一つは障害者運動が大事だということです。それは一言で言うなら障害のない他の人との平等を目指す運動といえるでしょう。文字通りすべての人にとって平等な社会は社会保障が基本的人権として保障される社会です。社会保障は戦後の歴史を見れば闘い運動によって築かれてきました。言い換えれば運動なくして自動的に社会保障が豊かにはならないということです。でもあります。

## 秘密保護法廃止へ

しんぶん赤旗日刊紙より

### 戦争は秘密から始まる

中国侵略とアジア・太平洋戦争時の日本では、新聞条例など情報発信の統制に加え、国家情報への国民の接近そのものを抑圧する秘密保護法制が、戦争遂行の中核となりました。

日本の侵略戦争が本格化する日進・日露両戦争の間、1899年に軍事保護法が作られ、中

国侵略が本格化する1937年の改定で処罰範囲が拡大、重罰化しました。さらに太平洋戦争開戦の41年には国防保安法ができ、秘密の範囲が軍事機密だけでなく御前会議や枢密院会議など「国家秘密」全体の拡大しました。そして最後には「大本営発表」だけが流され、日本軍の大敗北を国民に隠して「勝利」と偽り、

最後まで国民を戦争へと駆り立てたのです。国民主権と基本的人権の尊重、戦力不保持による平和主義の立場の日本国憲法のもとでは、戦争する国づくり自体が違憲であり、人権破壊の秘密保護法が成立する余地はありません。米元国家安全保障会議のメンバーはこの法律を、「21世紀に民主的な政府が検討した法律の中で最悪レベルのものだ」と批判しました。（おわり）

## 3月1日は 核兵器のない平和な世界へー 3・1 ビキニデー でした

1946年7月、アメリカはマーシャル諸島のビキニ環礁で、戦後最初の核実験を行い、その後太平洋は大規模な核実験場へと変えられました。1954年3月1日、アメリカは初めての水爆実験を行い、その爆発威力は広島島の1000倍にのぼります。当時、同海域で操業していた「第5福竜丸」から高い濃度の放射能が検出され、乗組員は全員、急性の放射能障害を起こしていました。放射能が検出された遠洋漁業の船は、のべ1000隻を超えました。マーシャル諸島の島々にも死の灰は降り、住民はいまも心身の傷に苦しめられています。日本にとっては広島・長崎に続く、3度目の被ばくとなり、原水爆禁止運動の要のひとつとなっています。

